

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」

2019年4月22日 氏名 宇田菜一郎

【JHF 活動履歴】	
2000年9月～2002年7月	安全性委員会委員
2001年4月～2002年3月	法務特別委員会委員
2004年9月	個人情報保護法対策委員会委員
2009年6月～	理事

【JHF 定款への理解】（どれかひとつをマルで囲んでください）

熟知している ・ ある程度理解している ・ 一通り目を通した ・ これから目を通す

【立候補意思表明】公益社団法人 JHF の活動に関するご自身の考え。

その際に下記2点を含めて下さい。

- (1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事
- (2) ご自分が理事として実践していきたい事

※この立候補意思表明書は JHF ホームページに掲載し一般にも公開されます。

時数制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。

この用紙をプリントアウトし手書きでの提出、または上記項目を漏れなく網羅してテキストファイル(.txt)またはワードファイル(.doc)で提出することも可とします。詳しくは「立候補意思表明書の提出について」をお読みください。

フライヤー人口は以前のような急激な減少は止まりましたが自然減を補うだけの新規フライヤーは生まれず穏やかな減少が続いています。現在、六十代、七十代のフライヤーが十年後には大量に引退することになるので今後も日本のフライヤー人口の減少は続き、その後に安定していくと予想されます。その前にどれだけ若いフライヤー人口を増やして下支えできるかが課題です。

一方、昨年、アジアカップで日本チームが金、銀メダルをとったことはとても大きな反響を呼びました。また、地域によっては安定的な集客に成功しているスクールもありますが、人口の少ない地方に行くほど生徒を集めるのが困難です。テレビコマーシャルにパラグライダーなどが使用されると反響もあります。これからもメディアへの露出を増やす努力が必要です。

スカイスポーツが危険なスポーツと思われたら普及は進みません。そして、昨年発生したような重大事故やインシデントが起きると大きく報道されて危険性ばかりが強調され、ますます普及が遠のいてしまいます。空を飛ぶことは決して危険ではない、きちんとルールを守って飛べば安全なスポーツなのだということをわれわれ自身が実践する必要があります。われわれのフライトの根本であるフライヤー保険を維持するためにも、より一層の安全対策が求められています。普及と安全はJHF活動の両輪です。安全なくして普及もありません。安全のための知恵と工夫を集め、実行していきたいと思えます。